

産業革命と資本主義

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

江戸

明治

今日の問い

イギリスで始まった産業革命は、人々の働き方や社会をどのように変えたのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 イギリスの産業革命

技術と生産の変化

産業革命

機械の使用で、産業と社会が大きく変わったこと。

蒸気機関

石炭を燃やして機械を動かす動力。

ワット

蒸気機関を改良したイギリスの技術者。

イギリスでは、インドから輸入した綿織物が人気を集めていた。18世紀後半、これを国内で安く大量につくろうと、糸をつむぐ機械や布を織る機械が次々に発明された。ワットが改良した蒸気機関が機械の動力になると、大きな工場で安い製品を大量につくれるようになった。こうした技術の進歩による産業と社会の大きな変化を産業革命という。

19世紀には蒸気機関車や蒸気船が実用化され、鉄道で人や物を速く大量に運べるようになった。石炭や鉄などの資源にめぐまれ、広い植民地も持っていたイギリスは、工業製品を世界中に輸出して「世界の工場」と呼ばれた。産業革命は、やがてほかのヨーロッパの国々やアメリカにも広がった。

2 資本主義と社会問題

資本家と労働者

資本主義

資本家が労働者をやとい、利益を目的に生産するしくみ。

社会主義

土地や工場を社会全体で持ち、平等をめざす考え。

工場や機械を持つ資本家が、労働者をやとって利益を目的に生産する資本主義のしくみが広がった。工場では、農村から都市に移ってきた人々や子どもが、低い賃金で長い時間働かされた。人口が集中した都市では、住まいの不足や不衛生な環境、工場の煙による空気のごれも問題となった。

こうした労働問題に対し、労働者は労働組合をつくって、賃金や労働時間などの改善を求めた。ドイツのマルクスは、資本主義のもとで生まれる貧富の差を批判し、土地や工場を社会全体で持って平等な社会をめざす社会主義を説いた。

イギリスでは、子どもの労働時間を制限する工場法なども定められていった。また、社会主義の考えは、のちの労働運動や、20世紀に生まれる社会主義の国に大きな影響を与えた。

立場	ようす
資本家	工場や機械を持ち、労働者をやとって利益を得る
労働者	工場でやとわれ、低い賃金・長時間労働に苦しむ

問いへの答え

18世紀後半のイギリスでは、機械と蒸気機関によって綿織物などを工場で大量に生産する産業革命が起こり、イギリスは「世界の工場」となった。資本家が労働者をやとう資本主義が広がる一方、低い賃金や長時間労働などの労働問題が起こり、労働者は労働組合をつくって改善を求めた。マルクスは、平等な社会をめざす社会主義を説いた。

次はノートで、下線に語句を書きながら確かめよう →

